

ページ・行	誤	正																																																																																																																						
p.620 表-10.1.9	支持地盤の種類と許容<u>応</u>力度（表-10.1.9） 表-10.1.9 支持地盤の種類と許容<u>応</u>力度（常時値）⁸⁾ <table><tr><th colspan="2">基礎地盤の種類</th><th rowspan="2">許容支持力度 q_a (kN/m²)^{注 1)}</th><th rowspan="2">擁壁底面の滑動安定計算に用いる摩擦係数 μ^{注 2)}</th><th colspan="2">備 考</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>q_u (kN/m²)</th><th>N 値</th></tr><tr><td rowspan="3">岩 盤</td><td>亀裂の少ない均一な硬岩</td><td>1,000</td><td>0.7</td><td>10,000 以上</td><td>――</td></tr><tr><td>亀裂の多い硬岩</td><td>600</td><td rowspan="2">0.7</td><td>10,000 以上</td><td rowspan="2">――</td></tr><tr><td>軟岩</td><td>300</td><td>1,000 以上</td></tr><tr><td rowspan="2">礫 層</td><td>密なもの^{注 3)}</td><td>600</td><td rowspan="2">0.6</td><td>―</td><td rowspan="2">――</td></tr><tr><td>密でないもの</td><td>300</td><td>―</td></tr><tr><td rowspan="2">砂質地盤</td><td>密なもの</td><td>300</td><td rowspan="2">0.6</td><td>―</td><td>30～50</td></tr><tr><td>中位なもの</td><td>200</td><td>―</td><td>15～30</td></tr><tr><td rowspan="3">粘性土地盤</td><td>非常に堅いもの</td><td>200</td><td>0.5</td><td>200～400</td><td>15～30</td></tr><tr><td>堅いもの</td><td>100</td><td>0.5</td><td>100～200</td><td>8～15</td></tr><tr><td>中位なもの</td><td>50</td><td>―</td><td>50～100</td><td>4～ 8</td></tr></table> 注 1) 数値は常時の場合を示し、地震時は常時の 1.5 倍の値とする。 注 2) 場所打ちコンクリートによるもの 注 3) 現場の土質状況や土質試験結果から判定する。	基礎地盤の種類		許容支持力度 q_a (kN/m ²) ^{注 1)}	擁壁底面の滑動安定計算に用いる摩擦係数 μ ^{注 2)}	備 考				q_u (kN/m ²)	N 値	岩 盤	亀裂の少ない均一な硬岩	1,000	0.7	10,000 以上	――	亀裂の多い硬岩	600	0.7	10,000 以上	――	軟岩	300	1,000 以上	礫 層	密なもの ^{注 3)}	600	0.6	―	――	密でないもの	300	―	砂質地盤	密なもの	300	0.6	―	30～50	中位なもの	200	―	15～30	粘性土地盤	非常に堅いもの	200	0.5	200～400	15～30	堅いもの	100	0.5	100～200	8～15	中位なもの	50	―	50～100	4～ 8	支持地盤の種類と許容<u>支持</u>力度（表-10.1.9） 表-10.1.9 支持地盤の種類と許容<u>支持</u>力度（常時値）⁸⁾ <table><tr><th colspan="2">基礎地盤の種類</th><th rowspan="2">許容支持力度 q_a (kN/m²)^{注 1)}</th><th rowspan="2">擁壁底面の滑動安定計算に用いる摩擦係数 μ^{注 2)}</th><th colspan="2">備 考</th></tr><tr><th colspan="2"></th><th>q_u (kN/m²)</th><th>N 値</th></tr><tr><td rowspan="3">岩 盤</td><td>亀裂の少ない均一な硬岩</td><td>1,000</td><td>0.7</td><td>10,000 以上</td><td>――</td></tr><tr><td>亀裂の多い硬岩</td><td>600</td><td rowspan="2">0.7</td><td>10,000 以上</td><td rowspan="2">――</td></tr><tr><td>軟岩</td><td>300</td><td>1,000 以上</td></tr><tr><td rowspan="2">礫 層</td><td>密なもの^{注 3)}</td><td>600</td><td rowspan="2">0.6</td><td>―</td><td rowspan="2">――</td></tr><tr><td>密でないもの</td><td>300</td><td>―</td></tr><tr><td rowspan="2">砂質地盤</td><td>密なもの</td><td>300</td><td rowspan="2">0.6</td><td>―</td><td>30～50</td></tr><tr><td>中位なもの</td><td>200</td><td>―</td><td>15～30</td></tr><tr><td rowspan="3">粘性土地盤</td><td>非常に堅いもの</td><td>200</td><td>0.5</td><td>200～400</td><td>15～30</td></tr><tr><td>堅いもの</td><td>100</td><td>0.5</td><td>100～200</td><td>8～15</td></tr><tr><td>中位なもの</td><td>50</td><td>―</td><td>50～100</td><td>4～ 8</td></tr></table> 注 1) 数値は常時の場合を示し、地震時は常時の 1.5 倍の値とする。 注 2) 場所打ちコンクリートによるもの 注 3) 現場の土質状況や土質試験結果から判定する。	基礎地盤の種類		許容支持力度 q_a (kN/m ²) ^{注 1)}	擁壁底面の滑動安定計算に用いる摩擦係数 μ ^{注 2)}	備 考				q_u (kN/m ²)	N 値	岩 盤	亀裂の少ない均一な硬岩	1,000	0.7	10,000 以上	――	亀裂の多い硬岩	600	0.7	10,000 以上	――	軟岩	300	1,000 以上	礫 層	密なもの ^{注 3)}	600	0.6	―	――	密でないもの	300	―	砂質地盤	密なもの	300	0.6	―	30～50	中位なもの	200	―	15～30	粘性土地盤	非常に堅いもの	200	0.5	200～400	15～30	堅いもの	100	0.5	100～200	8～15	中位なもの	50	―	50～100	4～ 8
基礎地盤の種類		許容支持力度 q_a (kN/m ²) ^{注 1)}	擁壁底面の滑動安定計算に用いる摩擦係数 μ ^{注 2)}			備 考																																																																																																																		
				q_u (kN/m ²)	N 値																																																																																																																			
岩 盤	亀裂の少ない均一な硬岩	1,000	0.7	10,000 以上	――																																																																																																																			
	亀裂の多い硬岩	600	0.7	10,000 以上	――																																																																																																																			
	軟岩	300		1,000 以上																																																																																																																				
礫 層	密なもの ^{注 3)}	600	0.6	―	――																																																																																																																			
	密でないもの	300		―																																																																																																																				
砂質地盤	密なもの	300	0.6	―	30～50																																																																																																																			
	中位なもの	200		―	15～30																																																																																																																			
粘性土地盤	非常に堅いもの	200	0.5	200～400	15～30																																																																																																																			
	堅いもの	100	0.5	100～200	8～15																																																																																																																			
	中位なもの	50	―	50～100	4～ 8																																																																																																																			
基礎地盤の種類		許容支持力度 q_a (kN/m ²) ^{注 1)}	擁壁底面の滑動安定計算に用いる摩擦係数 μ ^{注 2)}	備 考																																																																																																																				
				q_u (kN/m ²)	N 値																																																																																																																			
岩 盤	亀裂の少ない均一な硬岩	1,000	0.7	10,000 以上	――																																																																																																																			
	亀裂の多い硬岩	600	0.7	10,000 以上	――																																																																																																																			
	軟岩	300		1,000 以上																																																																																																																				
礫 層	密なもの ^{注 3)}	600	0.6	―	――																																																																																																																			
	密でないもの	300		―																																																																																																																				
砂質地盤	密なもの	300	0.6	―	30～50																																																																																																																			
	中位なもの	200		―	15～30																																																																																																																			
粘性土地盤	非常に堅いもの	200	0.5	200～400	15～30																																																																																																																			
	堅いもの	100	0.5	100～200	8～15																																																																																																																			
	中位なもの	50	―	50～100	4～ 8																																																																																																																			
p.635 (イ)地震時の土圧	K_H ：設計水平震度（「 10.1.9 (8) 地震力」参照）	K_H ：設計水平震度（「 10.1.10 (8) 地震力」参照）																																																																																																																						

ページ・行

p.645

表・10.1.19

構造物の重要度と要求性能に対応する耐震設計に用いる設計水平震度の標準値

重 要 度

C 種
高さ $H=8\text{m}$ 以下で、重要度は低く、かつ復旧が容易なもの

B 種
A 種、C 種以外

A 種
復旧困難で、極めて重大な 2 次被害を起こす可能性があるもの

耐震設計で考慮する地震動	—	レベル 1 (中規模地震)	レベル 2 (大規模地震)
地盤種別 K_{ag0}			
I 種	—	0.12	0.16
II 種	—	0.15	0.20
III 種	—	0.18	0.24
耐震設計法	—	震度法 (固有周期を考慮しない)	震度法 (固有周期を考慮しない)
照査法	—	注 1)	注 1)
耐震要求性能	耐震性能を設定しない	健全性を損なわない 注 2)	致命的な損傷を防止する

注 1) 「10.1.7.4 (3)」、「10.1.7.5」表・10.1.6、「10.1.7.6」の記述を参照のこと。

「10.1.7.4 (3)」の記述に基づき許容応力度法で照査を妨げない。

注 2) 『健全性を損なわない』とは、降伏状態を越え補修が必要となる損傷を生じない程度をいう。

B' : 荷重の変身を考慮した擁壁底面の有効載荷幅 (m) で、
 $B' = B \cdot 2e$

$F_s = \frac{\mu \cdot \Sigma V + c_B \cdot \underline{B} + 0.5 P_P}{\Sigma H}$ 式 (10.1.23)

p.650

26 行目

B' : 荷重の偏心を考慮した擁壁底面の有効載荷幅 (m) で、
 $B' = B \cdot 2e$

$F_s = \frac{\mu \cdot \Sigma V + c_B \cdot \underline{B'} + 0.5 P_P}{\Sigma H}$ 式 (10.1.23)

ページ・行	誤	正
p.688 式(10.1.45)	$q_{\max} = \frac{b \cdot \gamma_b \cdot H_0 \cdot \operatorname{cosec} \theta_0 + \underline{2.35} \times \left\{ 0.1 H_1 + \frac{1}{2} (H_1 + H_2) \cdot (B - 0.1) \right\}}{B}$ …………式 (10.1.45) ここに、B : 基礎幅 (m) H_0 : ブロック積直高 (m) H_1 : 基礎コンクリート前面高 (m) …… (図-10.1.77 参照) H_2 : 基礎コンクリート後面高 (m) γ_b : ブロック積の単位体積重量 (kN/m³)	$q_{\max} = \frac{b \cdot \gamma_b \cdot H_0 \cdot \operatorname{cosec} \theta_0 + \textcolor{red}{\gamma_c} \times \left\{ 0.1 H_1 + \frac{1}{2} (H_1 + H_2) \cdot (B - 0.1) \right\}}{B}$ …………式 (10.1.45) ここに、B : 基礎幅 (m) H_0 : ブロック積直高 (m) H_1 : 基礎コンクリート前面高 (m) H_2 : 基礎コンクリート後面高 (m) γ_b : ブロック積の単位体積重量 (kN/m³) $\textcolor{red}{\gamma_c}$: 無筋コンクリートの単位体積重量 (kN/m³) ………… (「10.1.10 (2) 自重」 参照)